

道づくりだより

第17号

2009. 7 島根県道づくり調整会議



山陰自動車道 斐川出雲間 建設状況

CONTENTS

1. 速報! 山陰自動車道 斐川 - 出雲間 11月28日開通!
2. 立て続けに国道9号が全面通行止めに ~早期に望まれる山陰道整備~
3. (主) 甲田作木線(上田工区)の供用開始について
4. 『都市計画道路 出雲市駅前矢尾線』の完成について
5. 林道の役割<Part1>
6. 8月は「道路ふれあい月間」です

速報!

山陰自動車道 斐川～出雲間 11月28日(土) 開通!



NEXCO西日本により建設が進められていた、山陰自動車道斐川インターチェンジから出雲インターチェンジまでの13.6kmが、平成21年11月28日(土)に開通することが決まりました。この区間の開通により、出雲市内の渋滞緩和、観光や企業立地など産業の振興、そして救急時の搬送時間の短縮などの大きな効果が期待されます。

**E T C車の休日特別割引(上限1000円)が
お盆時期の木、金曜日にも適用になります!**

E T C車の休日特別割引(上限1000円)が、お盆時期の休日の渋滞を分散させるため、8月6日(木)、7日(金)、13日(木)、14日(金)の平日4日間にも適用されることとなりました。

また、物流業者に配慮し、乗用車の割引を拡大する前後の期間(8月3日～5日、10日～12日、17日～18日)には、トラックやバスなどの中型車以上への割引も、合わせて拡充(終日5割引)して適用されます。

帰省、行楽などにご利用ください!

< 8月 > 高速道路の通行料金割引

月	火	水	木	金	土	日
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18					

上限1000円

バス、トラックなど中型車以上は半額

たて続けに国道9号が全面通行止めに !!

早期に望まれる山陰道整備による代替路線の確保

大雨による土砂災害、大型車の横転事故により、平成21年6月から7月にかけて、たて続けに国道9号が全面通行止めとなり、一般交通に大きな影響をもたらしました。これらは、国道9号しか主要幹線道路がないという島根県の脆弱な道路事情を改めて浮かび上がらせ、山陰道整備の必要性・緊急性を痛感させられることとなりました。

【平成21年6月22日】国道9号大田市温泉津町小浜 全面通行止め

平成21年6月22日午前6時半ごろ、大田市温泉津町小浜の国道9号の法面が、22日未明から降り続いた大雨により崩落し、崩壊した土砂が道路を塞いだため、午後8時までの約13時間全面通行止めとなりました。この間、一般車両は距離差約30km、時間差約50分の迂回を強いられ、延べ1万台弱が影響を受けました。現在も復旧工事のため、約1.3kmの区間で片側交互通行が続いています。



【平成21年7月1日】国道9号出雲市多伎町口田儀 全面通行止め

平成21年7月1日午前6時半ごろ、出雲市多伎町口田儀の国道9号のJR跨線橋で、大型トレーラーが高欄に激突する事故が発生し、事故処理のため2時間近く全面通行止め、さらに約5時間半片側交互通行となりました。国道9号の渋滞距離は最大で東西12kmに達したほか、JR山陰線も上下線合わせて

普通列車6本が運休、特急8本を含む列車14本が部分運休し、半日にわたり県内の東西交通は麻痺状態となりました。

事故発生時の状況



● 高速道路に期待される整備効果

高速道路は、事故・災害時の代替道路として機能します

国道9号は過去にも幾度となく、災害や事故により全面通行止めとなり、そのたびに通行車両は大幅な迂回を強いられ、日常生活や経済活動にも多大な影響をもたらしました。山陰道が整備されると、国道9号の代替道路として機能し、島根県の幹線道路ネットワークの信頼性は著しく向上します。

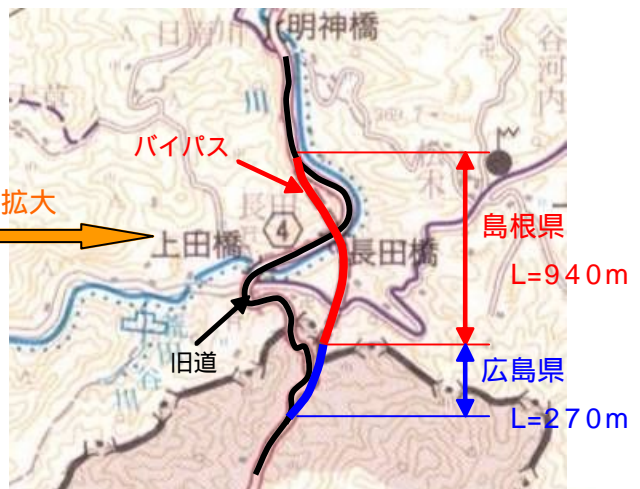


(主) 甲田作木線 (上田工区) の供用開始について

邑智郡邑南町上田において事業を進めていました主要地方道甲田作木線(上田工区)が平成21年7月27日に供用開始しました。

当工区は、幅員が狭いうえに線形も悪く、車両のすれ違いが困難な従来の道路をバイパスにより整備しました。また、県境に位置していることから、より整備効果を高めるため広島県と協同で事業を進めました。

この度の供用により、走行性・安全性が格段に向上し、安心して通行していただけるものと思います。



【事業概要】	
事業名	主要地方道 甲田作木線 上田工区 新世紀道路ネットワーク整備事業(H6～H18) 地方道路交付金事業(H19～H20)
事業期間	平成6年～平成20年
事業費	10億6500万円
計画延長	940m
計画幅員	全幅員 7.0m (2車線)
道路規格	3種4級
設計速度	40km/h





開通式

『都市計画道路 出雲市駅前矢尾線』の完成について

(主要地方道 出雲市停車場線)

出雲市今市町において事業を進めていました都市計画道路出雲市駅前矢尾線(主要地方道出雲市停車場線)のJR出雲市駅から国道9号までの区間が完成しました。

当区間は、JR出雲市駅から国道9号を結び、沿線には出雲市役所や商店街が立ち並ぶ出雲市のメインストリートです。整備にあたっては、安全・安心な道路空間を確保し中心市街地の活性化を支援するとともに、出雲地方の歴史と文化に配慮した地域のシンボルとなる街路整備を目的として平成8年度から事業着手し、工事を進めてきました。

当該路線の完成により、以下のような事業効果を発揮するものと期待しています。

片側7mの幅広歩道により歩行者・自転車を分離し、安全で快適な歩行空間が形成されています

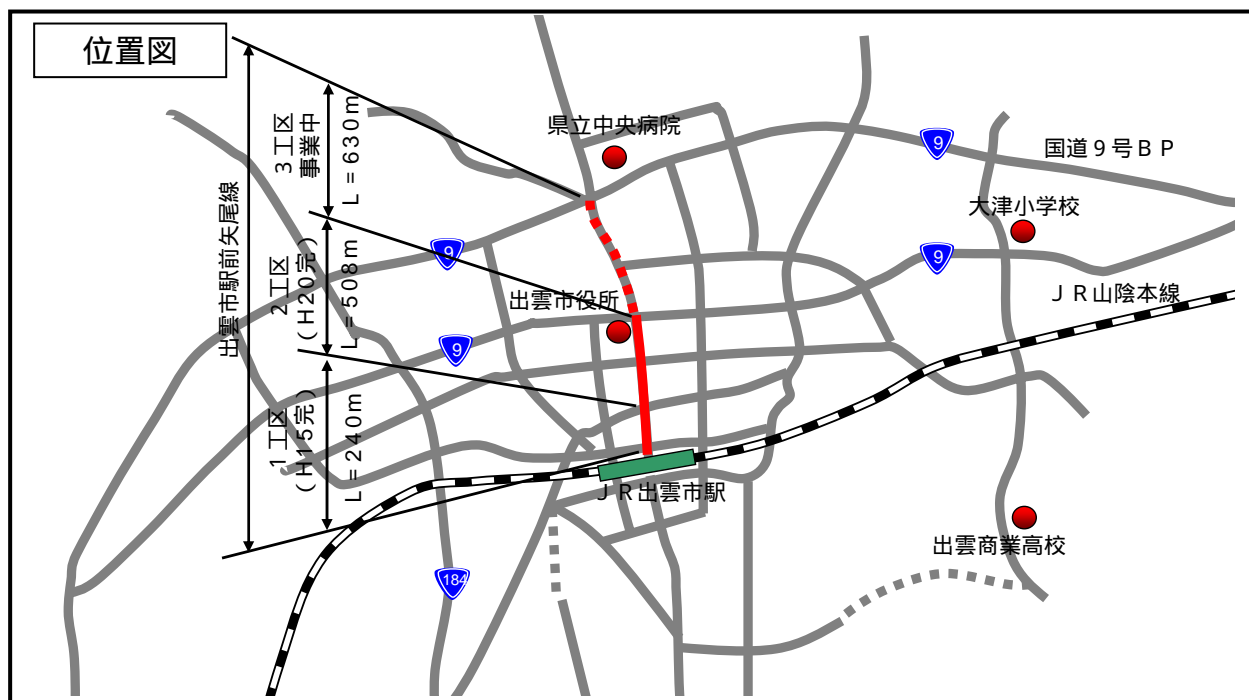
幅広歩道を利用して様々なイベントが行われており、中心市街地の活性化を支援しています

災害時の防災拠点となる出雲市役所とJR出雲市駅を結ぶ防災道路としての極めて重要な役割を果たしています

国道9号からJR出雲市駅までの自動車交通の円滑化に寄与しています

電線類が地中化され、良好な景観形成に寄与しています

今後は引き続き国道9号～国道9号バイパスまでの区間を整備します。事業期間は平成27年度までを予定しています。



【事業概要】

路線名	都市計画道路出雲市駅前矢尾線 (主要地方道 出雲市停車場線)
事業期間	平成 8 年度～平成 20 年度 (1 工区：平成 8 年度～平成 15 年度) (2 工区：平成 14 年度～平成 20 年度)
事業費	約 9.8 億円 (1 工区：約 5.3 億円 2 工区：約 4.5 億円)
計画延長	748 m (1 工区：240 m 2 工区：508 m)
計画幅員	25 m
道路規格	第 4 種第 2 級
設計速度	50 km/h

1 工区の整備状況 (左：整備前 右：整備後)



様々なイベントに利用されています

2 工区の整備状況 (左：整備前 右：整備後)



電線類が地中化され、町並みがすっきりしました

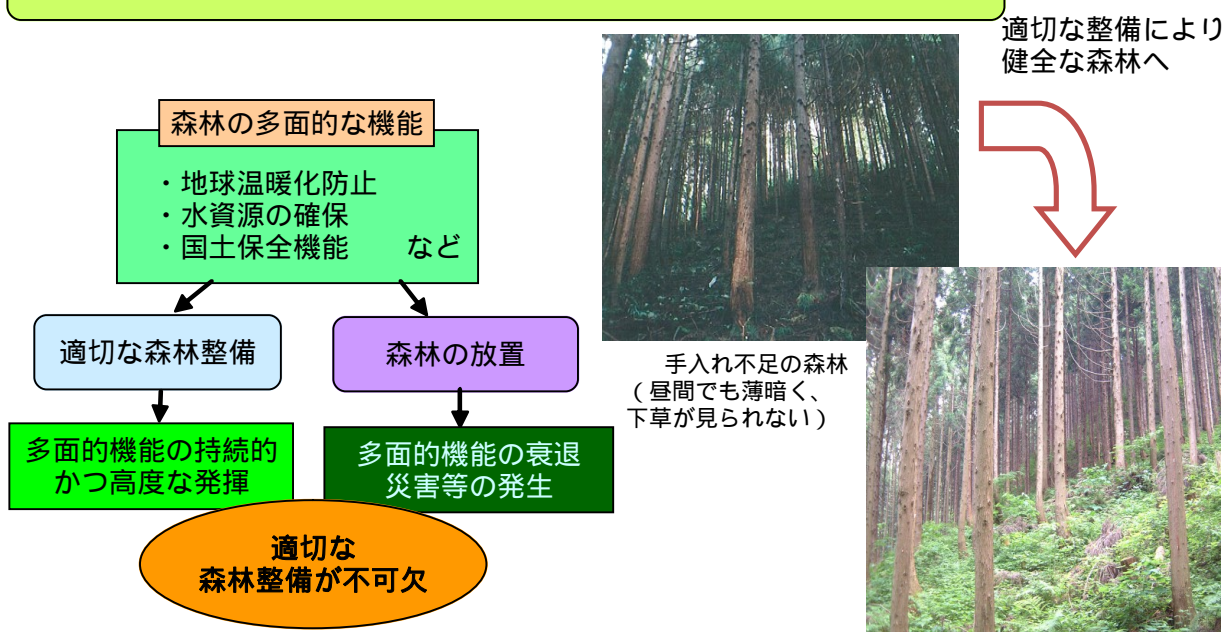
林道の役割 <Part 1> 〔森林整備に不可欠な林道〕

林道は、森林を健全な状態で維持・管理し、森林からの様々な恩恵を私たちの生活の場に運ぶために不可欠な施設です。また、山村地域の人々の通勤、通学などの生活道や、森林と山村・都市を結び森林を憩いの場として提供するなど大切な役割を担っています。
この林道の役割について、今回は、「森林整備に不可欠な林道」と題してご照会します。

地球温暖化防止、水資源の確保、国土保全などの森林の多面的な機能を十分に発揮するためには森林の適切な整備・管理が欠かせません。

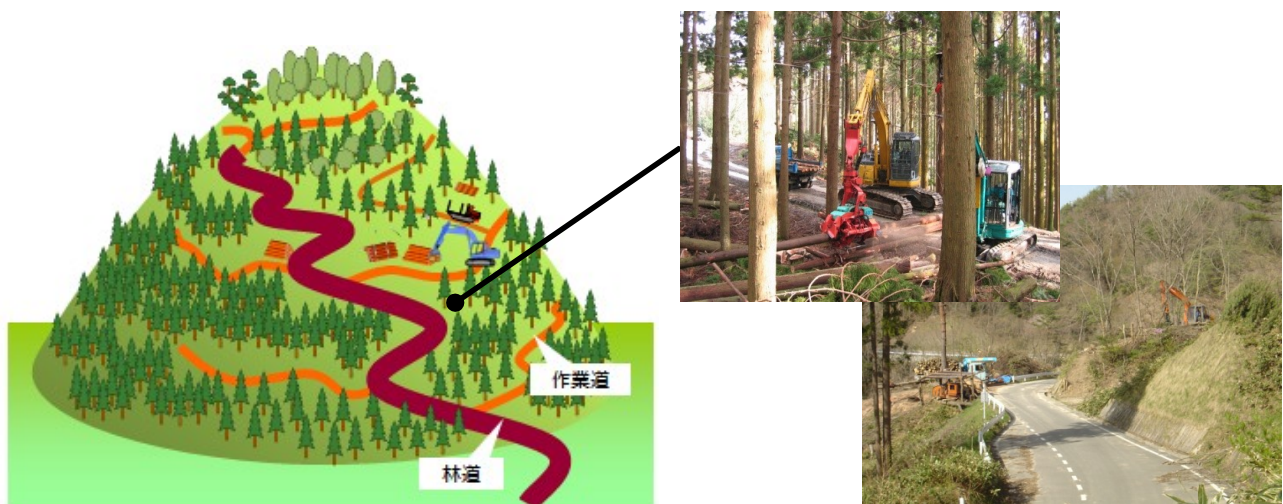
林道は手入れが必要な森林へのアクセスや、機械化等を通じた適切な森林整備を実施していく上で不可欠な施設であり、森林を守るために重要な役割を果たしています。

森林の多面的な機能の発揮に欠かせない森林整備



森林整備を担う多様な林道

森林整備は急峻な山地で行われることが多く、規格の大きな林道だけでは森林の奥深くまでは到達できません。そこで、地形や用途に合わせ、幹線林道と支線林道、作業道・作業路などを使い分け、森林を広くカバーすることにより、森林整備を容易にしています。



次回もおたのしみに！

8月は「道路ふれあい月間」です

～また歩こう そんな気になる 道がいい～

平成21年度「道路ふれあい月間」推進標語 最優秀作品 青森県 松山 華子さん 13歳（小中学生の部）

道路は、生活の向上と経済の発展に欠くことのできない共有の財産、つまりあなたの財産です。みんなが道路と親しみ、ふれあい、常に広く美しく、安全に、ともに楽しく利用していきましょう。

・道路ふれあい月間とは？

国土交通省が、道路を利用する方々に改めて道路とふれあい、道路の役割や重要性を再認識し、道路をいつくしむ気持ちをもってもらうため実施しています。この月間中には全国で表彰をはじめとした様々な活動が行われます。

また、期間中の8月10日は「道の日」です。大正9年8月10日に日本で最初の道路整備についての長期計画が実施されたことからこの日が選ばれ、昭和61年に制定されました。



8月10日は「道の日」

・島根県ではどんなことをしているの？

島根県では、「道路ふれあい月間」推進標語の紹介や、道路愛護等に努めた方々を国土交通大臣表彰へ推薦したり、「みんなで守り育てるしまねの道と川の愛護活動」として知事表彰を行っています。

・「道路ふれあい月間」推進標語とは？

毎年1～3月頃に、国土交通省が募集をしています。島根県では、期間中県庁道路維持課や各県土整備事務所、市町村役場、道の駅において応募用紙を配布しています。また、入選作はポスターやチラシなどに幅広く使用されます。

平成21年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品は次のとおりです。

最優秀賞

「また歩こう そんな気になる 道がいい」 青森県 松山 華子さん 13歳（小中学生の部）

優秀賞

「続く道 夢に希望に ふるさとに」 東京都 世良 和美さん 44歳（一般の部）

「この道が 支える我が街 我が暮らし」 大阪府 鈴木 昭博さん 39歳（一般の部）

「元気湧く 地域いきいき 道路から」 大阪府 川崎 幸子さん 66歳（一般の部）

「ゆっくりと かぜをかんじて 歩く道」 新潟県 坂井 敏法さん 8歳（小中学生の部）

「いつの日も ぼくらを見まもる つうがくる」 高知県 浜渦 龍之助さん 9歳（小中学生の部）